



AET2

Asian and Middle Eastern Studies Tripos, Part II

---

Friday, 1 June 2018, 13.30 to 16.30

---

## **Paper J12**

### **Modern Japanese texts 3**

*Candidates should translate **both** questions from section A and answer **one** question set from section B. Both sections carry **equal** marks.*

*Write your number **not** your name on the cover sheet of **each** answer booklet.*

### **STATIONERY REQUIREMENTS**

*20 page answer booklet*

*Rough Work Pad*

### **SPECIAL REQUIREMENTS TO BE SUPPLIED FOR THIS EXAMINATION**

*Shinjigen dictionary*

*Kojien dictionary*

**You may not start to read the questions printed on the subsequent pages of this question paper until instructed to do so.**

## Section A:

Please translate **both** of the following **two unseen** passages from Japanese into English. **[25 marks]**

(1)

### 1. 中国における日本人「残留者」と「留用者」の相違

1945年日中戦争が終了した当時、中国にいた日本人は、開拓団を含めて約155万人を超えた<sup>1</sup>。国際間の協議では、彼らはすべて日本へ帰還することになっていた。しかし、占領下の日本の混乱に加えて、中国では国民党と共産党との内戦が勃発したため、数多くの日本人は中国各地に残された。彼らは大きく2部分に分けられると思われる。

一つはよく知られている「残留者」である。このような人々について、日本政府は「両親、兄弟と死別し、または生別し、孤児となって中国人に引き取られたり、生活の手段を得るために中国人の妻になるなどして、やむなく中国に残ることとなった子供や婦人等」と定義し、「中国残留邦人」と総称している<sup>2</sup>。

今ひとつは、内戦中の国民党側と共産党側に別々に徴用され、従軍医師や看護婦、軍の

Question (1) continued...

教官や兵士、鉄道や工場の技術者などとして残された日本人である。中国では彼らを「留用者」と呼ぶ。

要するに、「残留者」は国民党支配区または共産党支配区の当局側の意思と関係なく、主として状況の混乱や個人的事情などによって部外者として民間に残っていたものであるといえる。これと異なって、「留用者」は国民党当局または共産党当局の要請または命令によって徴用され、それぞれの諸部門の部内者として扱われた人々である。

Vocabulary:

開拓団: Pioneer Groups, "civilian settlers"  
国民党: Chinese Nationalist Party (KMT)  
留用者: those retained for work (after empire ended)

(鹿錫俊「戦後中国における日本人の「留用」問題」 *The Journal of Daito Asian Studies*, 6, March 2006, p. 183-184.)

(TURN OVER)

(2) [25 marks]

女性学では、18世紀のメアリー・ウルストンクラフトにさかのぼることができる女性解放運動の長い歴史を、第一波と第二波とに分けて論じている。参政権の獲得運動や同一賃金や機会均等などの権利獲得運動として結実する20世紀初頭の女性解放運動が第一波。これはフランス革命で獲得した人権という思想を女性にも適用してほしいというリベラルな要求が実を結んだものだった。

そして第二波が、60年代後半からうねり出す。そのひきがねを引いたのは、半ば伝説的になっていることだが、アメリカではベティー・フリーダンの『新しい女性神話の創造』であり、日本では学生運動への深い絶望のあとに起こったリブ運動であると言われている。第二波が、「男並み」の権利獲得をめざす第一波と大きく異なっている点は、「男」と「女」の意味をあらためて問いなおして、「生物学的・解剖学的な性」とは異なった「社会的・文化的に作られた性」である「ジェンダー」の概念を発見し、思想としてのフェミニズムを誕生させたことだった。

ジェンダーとは、いわゆる「男らしさ」や「女らしさ」という「社会的・文化的に作られた性」のことで、女性解放運動が発見した最も重要な概念である。その概念に気づくまでは、「外生殖器がオスなら大きく強くたくましい男としてのジェンダー・アイデンティティーを持ち、メスな

Question 2 continued...

ら、華奢で優しく柔らかく、結婚・出産・育児・介護とい  
う女らしい伝統的役割をになうこと」が「自然」のここと  
されていた。この概念の発見によって、男女は生物学的・  
解剖学的な決定論から「脱自然化」されることになる。

KATSUKATA (=INAFUKU) KEIKO, '*Atarashii kyōyō*' toshite no '*Jendā sutadīzu*' (1999), pp.60-61.

(TURN OVER)

## Section B:

Choose **ONE** of the two **unseen** passages in Japanese and answer the comprehension questions that follow it in English. **[50 marks]**

(3)

人口減少は、日本史上最大の挑戦

第二の憲法をつくる

いま、私たちの目の前で起こりつつある日本の急激な人口減少は、日本史上最大の挑戦である

人口は、国の基であり国の形である。

その消長は経済規模と国民の生活水準を、そして、国力と国勢を、左右する。

このまま、いまの出生率が続けば、100年前に5000万人だった日本の人口は、今世紀末には同じ5000万人に縮小する。それも、明治時代のように若者が満ち溢れていた国ではなく、高齢化率が40%に達する、老いた5000万人国家である。

そうなった場合、日本の社会の活力と国の生命力は衰弱し、嫉妬の政治が横行し、国民は自信を失い、悲観論に囚われ、刹那的になる恐れが強い。そうなった場合、私たちが連綿と育んできた文化も伝統も維持できなくなるだろう。

そうあってはならない。

そうさせてはならない。

そうさせないためには、効果的な人口政策を確立しなければならない。

そして、それを支える世代を超えた広範な国民的合意と、それを長期にわたって実現していく持続的な政治的意思を必要とする。

しっかりした人口政策をつくる、それに対する国民的合意を築く、それを実現する持続的な政治的意思を固める。

そのような広範な国民的合意と持続的な政治的意思は、いわば第二の憲法とってよいであろう。

### Question 3 continued...

第二の憲法をつくることが、今を生きる私たちの未来への最大の責任である。

人口政策の確立は、これまでの人口政策（より正確には人口無策）の失敗の検証から始めなければならない。

これまでと同じ取り組みを続けるだけでは、また失敗するだけだからである。

日本政府が人口減少を政策課題としたのは、1992年の国民生活白書で少子化という言葉を用いて、問題提起したのが最初である。政府は1972年まで人口過剰論を展開していたのである。

しかし、厚生省（現厚生労働省）はその後にも将来人口推計では出生率が回復するという予測を出し続けた。

団塊ジュニアによる人口の下支え効果を期待してのことだった。

この状況認識の甘さが、最初につまずきである。

その後、1995年を頂点に日本の労働人口は減少に向かい、2008年を頂点に、日本の人口は絶対減の局面に突入した。

顧みると、団塊ジュニアが出産期を迎えた2000年から2015年の15年間は、決定的に重要な期間であった。人口減少に歯止めをかける橋頭堡を形成する上で最後のチャンスであった。それを逃したのである。バブル崩壊や金融破たんによる経済の悪化、雇用基盤の流動化（非正規雇用化）が、結婚し子どもを産み育てるべき若者層を直撃した。いずれは結婚することが期待された「晩婚化現象」は、ここで「非婚化現象」に至ることとなったのである。一方、この時期になっても、社会保障の主要課題は、年金、医療、介護を軸に高齢化問題が優先され、少子化問題は背景にかすんだのである。若者層より高齢者の方の雇用・生活を優先し、有効な若者支援に全力を注がなかったことは、政府はもとより経済界・労働界も相応の責任を負わなければならない。

(TURN OVER)

### Question 3 continued...

2003年に「少子化社会対策基本法」が制定され、「有史以来の未曾有の事態」（前文）である少子化に総合的に取り組む姿勢を見せるようになったが、人口減少そのものについての取り組みはなおも及び腰に終始した。

問題の先送りに次ぐ先送りが、日本の人口減少を加速化させる結果となった。

いま、出生率の向上が10年遅れるごとに、将来の人口は300万人減少する、そうした待たなしの状態に、私たちは追い込まれている。

もはや人口問題の先送りは許されない。

もう一つ、人口減少がデフレからの脱却を難しくすることを見抜けなかったことがある。

人口減少は経済を縮小させる。それが構造化すればデフレも構造化する。人口減少によって経済のパイが縮小すれば、生活インフラの崩壊をもたらす。それらが相まって、人口減少をさらに加速化させる。

そうした「負の連鎖」が始まる。

冷戦後の長い「失われた時代」における不良債権処理の先送り、デフレ定着、福島原発事故などの数々の失敗のうち恐らく最大の失敗は人口政策の失敗だったと言ってもよい。

なぜ、失敗したのか。その原因を究明することが効果的な人口政策を確立する上で重要である。

なぜ、失敗したのか。

それは、私たちが人口問題の政策的特殊性を十分に認識していなかったからである。

その政策的特殊性とは、長期的かつ全体的な取り組みをしなければ、政策的効果は生まれないということである。

日本の出生率は1970年代後半以降、急速に低下し始めた。

「人口規模を長期的に維持できる水準」（現在は2・07）を下回る状態がすでに40年間続いている。

その累積圧力は、あたかも重力のように日本の人口を押しつぶそうとしている。



### Question 3 continued...

人口減少を食い止めようとしても、つまり「人口規模を長期的に維持できる水準」を回復させようとしても、今後何十年単位で取り組んで行かなくてはならない。計画的に移民を受け入れるにしても、生活者として社会に根付いてもらうにはこれも何十年単位のプロジェクトとなる。

人口政策は、政策効果が生まれるまでの懐妊期間が恐ろしく長い。

従って、人口問題への対応は、いきなり頂上を目指すべきではない。

その上、すでに加速化している人口減少に対しては、一方でその悪影響を是正する（緩和）ための手段を講じながら、他方では、人口減少を見据え、それに適応し、経済社会の持続可能性を維持する（適応）ための方策を打ち出していかななくてはならない。

そのような二正面作戦を展開せざるをえない難しさもある。

それに人口問題は、政策の効果が徐々にしか表れてこないため、政治指導者が任期中に自らの政策成果として得点にしにくい。

人口政策ほど政治が取り組む上で難しい分野はない。

そのことを私たちは認識しておくべきである。人口政策についてどのような提言を行おうが、この政治が取り組む上での難しさを念頭に置いて行う必要がある。

もう一つ、私たちが十分に認識してこなかった点は、今後の人口減少のスピードの速さであり、それに伴う「負の連鎖」のスケールの大きさである。

日本のように人口減少が急速で、しかもそれが加速化すると、そのインパクトが経済社会全体に及び、また、その反作用を受ける形で「負の連鎖」が起こる。

その典型的なケースが、人口動態を踏まえた効果的な国土政策がつかれなかったことである。政府は、地方分散を志向した国土政策を試みたが、それに基づいた具体的な施策が不十分だった。なかでも、地方の人口と経済の集中と選択を進め、地方を活性化する人口再配置ビジョンを追求しなかった。国土政策の失敗は、人口政策の失敗のミラー・イメージである。

Introduction to 船橋洋一, ed. 『人口蒸発 5000 万人国家』 2015

(TURN OVER)

Question 3 continued

Questions: Please answer in your answer booklet. [All questions of **equal weight**]

- a) What scenario does the author believe will happen to Japan in the near future and what is the country doing about it ?
- b) How did the situation devolve to the point that the author is detailing?
- c) What does the author mean by 「第二の憲法をつくること」 ?
- d) When was the last time the Japanese government had the chance to stem population decline, and why was it not able to implement change?
- e) What is a 「負の連鎖」 ? What does this term signify in the essay?
- f) What do 「晩婚化現象」 and 「非婚化現象」 have to do with this selection? How does a 「少子化」 problem relate and what should an ideal birth rate be?
- g) What does the author feel that Japan's population policy should be?
- h) What is referred to as the 「失われた時代」 ? What does that mean and how does it relate it to the entire passage?
- i) The author assesses that an effective population policy is difficult to implement. Offer several reasons from the essay as to why that is.

This list of questions is **copied** at the end of the paper (page 16) for convenience.

## 五章——日本近代文学の奇跡

そもそも、小説とはいったい何か？

小説とは、文学のジャンルとして、何を特徴とするものであろうか？

私は小さいころは小説は、寝転がっておせんべいをかじりながら、楽しんで読んできただけである。だが、大人になり、自分でも小説を書き、さらには、日本の来し方を振り返り、そして、乏しい知識でもって世界の歴史を考えるうちに、私なりに達した一つの結論がある。

それは、小説とは、〈国語〉で書かれたものであるにもかかわらず——というよりも、〈国語〉で書かれたものであるがゆえに、優れて〈世界性〉をもつ文学だということにはかならない。

〈国語〉は〈普遍語〉の翻訳から成立した言葉だから、当然〈現地語〉よりも〈世界性〉をもつ。だが、それだけではない。〈国民国家〉の言葉である〈国語〉とは近代の産物であり、近代の技術のみが可能にする「世界を鳥瞰図的に見る」という視点を内在した、真に〈世界性〉をもつ言葉なのである。

〈国民国家〉の国民は、かつてのギリシャ人や中国人のように、自分の国の外には、わけのわから

(4)

Question (4) continued...

ぬ言葉話し、奇妙な風俗をもった蛮人がいるだけなどとは思っていない。〈国民国家〉の国民は、今、自分の国の外に、たくさん〈国民国家〉があり、そのたくさん〈国民国家〉のなかで、さまざまな国民がさまざまな〈国語〉を使いながら、自分と同じように生きているのを知っている。〈国語〉でもって小説を書くとは、世界の人々と同時性をもって生きているという意識のもとで書くことにはかならない。それは、世界の歴史も世界の地図も、同時代の世界の人々と同じように認識しているの意味する。最新の大きな科学的な発見なども、同時代の世界の人々と同じように追っているの意味する。世界の古典と言われるものも、同時代の世界の人々と同じように読み、人間はかくあるべきだという概念も、かれらと同じように共有しているの意味する。

具体的に言えば、今、人が小説を書こうとすれば、地球が太陽の周りを回っているだけでなく、温暖化しているのも知りつつ書かなければならぬし、また、その人自身がいかに抑圧的な社会に住んでしようと、「基本的人権」や「個人の自由」という概念の普遍性を、世界の多くの人は信じているのを知りつつ書かなければならぬ。

のみならず、小説を読むという行為も、そのような〈世界性〉を前提とする。聞いたことも見たこともない〈国語〉の小説であろうと、小説を読み書きするとは、そういうことなのである。数年前、「源氏物語」が紀元前に書かれたと思っっているアメリカ人に会って驚いたことがあるが、その人も日本近代文学を読めば、それがいったいどこ書かれたものか、世界史との関わり合いのなかでおおよそその見当がついたであろう。

前の章では、日本にはやばやと〈国語〉が成立するのを可能にした歴史的な条件をみていった。一つは、近代以前の日本の〈書き言葉〉が〈現地語〉としては高い位置をしめ、成熟していたこ

Question (4) continued...

と。

二つには、近代以前の日本にベネディクト・アンダーソンがいう「印刷資本主義」があったこと。三つには、近代に入って、西洋列強の植民地にならずに済んだこと。

さて、この三つ目の歴史的條件によって初めて可能になったこと——そして、それぬきには、日本近代文学が生まれえなかったことがある。

ほかでもない、日本に、日本語で〈学問〉をすることができる〈大学〉が存在するようになったという事実である。

日本に日本近代文学が存在するようになったこと。それは、日本に、日本語で〈学問〉ができる〈大学〉が存在するようになったという事実ぬきには考えられない。日本近代文学が生まれて大きく花ひらくのに、いかに〈大学〉が大きな役割を果たしたことが。そして、その事実が、時を経るに従い、いかに知らず知らずのうちに隠蔽されてきたことであろうか。

ふたたび、「もし」という仮定形の質問に戻る。もし、日本がアメリカの植民地になっていたら、どうなっていたか？ たぶん、私たちが今知っているような日本の大学は存在しえなかったであろう。植民地政府に選抜された優秀な人材や裕福な家庭の子弟はアメリカの大学に留学することになったであろうし、もし日本に大学が作られたとしても、授業は英語で教えられるようになったであろう。（事実、台湾や朝鮮を植民地化した日本は台湾や朝鮮に日本語の大学を作った。）

ところが、植民地になる運命を逃れた日本は自前で大学を作ることになった。（婦女子の高等教育は最初はキリスト教の伝道者に任せた。）西洋の建築をまねた煉瓦造りの建物をあちこちに建て、西洋から革表紙の書物を山のように買いこんだのである。建物はできても学生を教えられる教師は

198

(TURN OVER)

Question (4) continued...

おらず、そのあとしばらくは、大臣より高い給料で「お雇い外人」を雇っていたが、それはその場凌ぎのことではない。やがて西洋に留学した日本人が戻ってくると、「お雇い外人」を解雇して、代わりにそれらの日本人を教師として雇っていった。

「お雇い外人」を解雇して、代わりに日本人の教師を雇っていったという動き。それは、日本にとっても日本語にとってもこの上なく重要な動きであった。そのとき初めて日本は「自分たちの言葉」で「学問」ができるようになったのである。日本語が、「大学」という公的な場で、その言葉でもって「学問」ができる「国語」という地位を公的に得たのであった。

「国民国家」が成立するときには、まるで魔法のように、その歴史的な過程を一身に象徴する国民作家が現れる。

日本では、漱石がそうである。

Question (4) continued...

### Vocabulary

鳥瞰図	bird's eye view
煉瓦	brick
隠蔽する	to conceal, to hide

**Questions:** Please answer in your answer booklet. [All questions of equal weight]

- a) What did 「小説」 mean to the author as a child, and what has changed since she became an adult?
- b) How do today's 「〈国民国家〉の国民」 differ from the ancient Greek or Chinese? What accounts for that difference?
- c) What does it mean to write 「小説」 today?
- d) What does the author mean by 「そのような〈世界性〉」 on page 197 (page 12 of the script)? In your answer, please translate the two specific terms she uses into English.
- e) What surprising mistake was made by the American person who the author met, and how could they have avoided making such an error?
- f) Summarise the three historical conditions that made possible the establishment of a Japanese 'national language'.
- g) What, then, made possible the development of 「日本近代文学」?
- h) What would have happened if Japan had become a US colony? What example does the author use to back up her argument?
- i) What is an 「お雇い外人」?

MIZUMURA MINAE, *Nihon kindai bungaku---so no futatsu no jikan* (2008), pp. 75-81.

**END OF PAPER**

**One page follows with copy of question list for question 3**

Page 15 of 16

**Copy** of questions to **question 3** for **convenience** (copied from page 10):  
Please answer in your answer booklet. [All questions of **equal weight**]

- a) What scenario does the author believe will happen to Japan in the near future and what is the country doing about it ?
- b) How did the situation devolve to the point that the author is detailing?
- c) What does the author mean by 「第二の憲法をつくること」 ?
- d) When was the last time the Japanese government had the chance to stem population decline, and why was it not able to implement change?
- e) What is a 「負の連鎖」 ? What does this term signify in the essay?
- f) What do 「晩婚化現象」 and 「非婚化現象」 have to do with this selection? How does a 「少子化」 problem relate and what should an ideal birth rate be?
- g) What does the author feel that Japan's population policy should be?
- h) What is referred to as the 「失われた時代」 ? What does that mean and how does it relate it to the entire passage?
- i) The author assesses that an effective population policy is difficult to implement. Offer several reasons from the essay as to why that is.